

朝倉市 松末復興かわら版

9/24(日) 松末小学校体育館 応急工事説明会開催

2017年9月24日 10時から松末小学校体育館で、松末地域コミュニティー協議会主催の「豪雨災害応急復旧工事に伴う松末地域説明会」が開かれ、地域住民ら200名弱が集まった。説明側には国交省2部局、林野庁、福岡県農土事務所、朝倉市2部局、九州電力の計7部局が出席した。

今回の説明会は本年7月5日の九州北部豪雨による仮復旧工事が松末地区でも行われているが、様々の工事が錯綜し住民

11時から質疑応答に移ると住民からは切実な質問が相次いだ。その中から広域性が強いと思われる質問と回答は以下の通りであった。

将来が見えない不安へ 質問相次ぐ

▲問1▼5年まえのハザードマップで危険区域に指定され現地再建できない。宅地の造成は行政でやってくれるのか？

■答 朝倉市政策課石井 松末地区だけでも79%の被災を受けている。今現在国県市をあげて応

急復旧工事をやっているが、今後の計画を関係機関と相談しながら作る準備をしている。地元においても推進協議会を立ち上げ、今後10年の松末の形を作っていく予定。具体的な案を出せないのがもういけない。危険地区は場所によっては山崩れで土砂が溜まった所もある。そこは国直轄で安全対策を検討中。また地質調査も行い、沢ごとの状態も把握されてゆく。

地域住民主催の説明会は6年まえの東日本大震災でも見られなかった、全国的にも先進的な取り組みといえる。1分間の黙祷のあと伊藤陸人コミュニティー協議会会長が本説明会の趣旨を説明、続いて7部局から住民へ仮復旧工事についての説明を約1時間行われた。



松末小学校体育館には200名ほどが訪れた。写真左から、福岡県農土事務所・農水省農林事務所(熊本)・国交省砂防班・河川事務所・朝倉市総務部と農林課・九州電力甘木配電事業所の各部局

その中で危険な箇所居住可能な場所も明らかにされてゆくと思われる。そこで判断してゆきたい。情報が出揃い次第地域と話し合い。造成については国の選択肢を調査中。基本的に安全な場所を確保したら、分譲なり貸付

井) 国の制度では2年とあるので、それ以上は市のほうで明確には答えられない。2年の中で被災者の意向調査もしながら、今後の住宅製作に反映したい。

▲問3▼農地は行政が買い上げるのか？ ▲問4▼農地は区画整理して再配分するのか？ ▲問5▼3年から5年間の所得補償はあるのか？

■答 市農林部長 農地も宅地の造成と同じだが、農地の復旧に関しては河道が確定してからになる。現在農地が残っているところについては上部機関と相談しながら何らかの水源地確保できないかを考えている。農地が流れたところも宅地同様復旧の交渉をしている。

■答 市農林部長 農地を確保できる場合は高台など安全なところに農地を確保できる場合はそこに、あらたな農地を作っていくことになる。40万円以下だと半分になる。明日から12/28までが査定となる。伸ばしてくれと言ったのです。

■答 市農林部長 激甚被害は40万円以上の被害がないと出ない。40万円以下だと半分になる。明日から12/28までが査定となる。伸ばしてくれと言ったのです。

■答 市農林部長 激甚被害は40万円以上の被害がないと出ない。40万円以下だと半分になる。明日から12/28までが査定となる。伸ばしてくれと言ったのです。

■答 市農林部長 激甚被害は40万円以上の被害がないと出ない。40万円以下だと半分になる。明日から12/28までが査定となる。伸ばしてくれと言ったのです。

■答 市農林部長 激甚被害は40万円以上の被害がないと出ない。40万円以下だと半分になる。明日から12/28までが査定となる。伸ばしてくれと言ったのです。

着たのが2100件。40パーセントしか申請が来ていない。田んぼの中に砂は入っているが、こういうのは1件で出すと40万円にならない。我々がプロジェクト分けして補助に乗るように勤めている。河川沿いで流された田畑も写真にかけ、全部査定にかけようとしている。それらは現状に戻す形で査定にかけようとしている。河川沿いで流された田畑も写真にかけ、全部査定にかけようとしている。

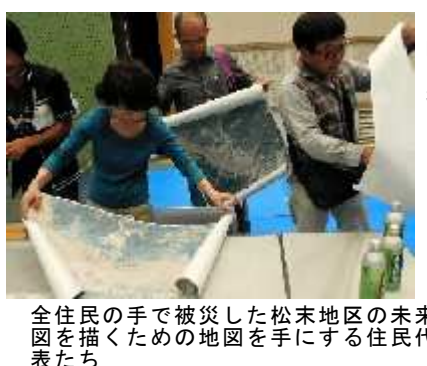
新聞各紙より

10月9日 全住民参加し 復興未来図

7月の九州豪雨で大きな被害を受けた朝倉市松末、ますえ、地区で、全住民が復興に向けた地域づくりを話し合い、未来図を描く動きが始まった。市は来年3月までに住民代表の意見を取り入れた復興計画策定を予定しており、松末地区は、ひと足早く全住民参加の意見集約を行い、復興計画に反映させたいと考えた。

松末は約700人が暮らしているが、豪雨で赤谷川などが氾濫。多数の犠牲者を出し、住家約200戸が損壊して被災者は仮設住宅などで暮らす。田畑や橋が流され、電気が復旧していない集落もあり、生活再建が課題となっている。市は、復興計画に地域の意見をとり入れるため、地区別復旧・復興推進協議会を松末など8地区で順次発足させているが、参加する住民代表は20人前後。会合の回数も少なく、住民の声がどこまで反映されるかは未知数だ。

そこで松末地区は23人の代表を中心に集落ごとに全住民が集まる。意見をまとめることにした。住民が望む住宅や道路、土地利用の在り方などを集落ごとの事情を加味しながら地図に落とし込む。



未来地区の住民に松末地区の被災状況を説明する。住民代表は全図表

10月15日 松末小児童が被災校舎清掃

九州豪雨で土砂が流れ込み、校舎や体育館が使えなくなった朝倉市の松末小で14日、児童や保護者らが校舎を掃除した。写真。5日から市小学校PTA連合会や朝倉青年会議所(JC)などが取り



校舎の清掃を行う松末小児童たち。

組んでいる清掃活動の一環。これまでに延べ700人以上が参加し、豪雨直後に比べ、見違えるほどきれいになった。児童27人のうち22人が参加。豪雨の際、児童や住民ら約50人が一夜を明かした3階の教室などをほうきで掃き、ぞうきんをかけた。児童が住民らにメッセージを伝えようと玄関近くに設置した掲示板の前には、校章をイメージした花壇を作り、花を植えた。清掃を終えると、児童代表の6年男児(竹)が、小学校をきれいにしてくれてありがとうと、ごいまいした。この学校で卒業式や閉校式を迎えられそうですとあいさつ。感謝の意を込めて、児童全員で校歌を歌うと、涙を流す保護者もいた。

つた家屋は私費で解体するのかが、など20件を超える質問が相次ぎ、予定時間を越えたが延長して多くの住民の不安に答えることが出来た。今後ともふると松末の主体性を失わずに復興と向き合うことが松末地域コミュニティー協議会の努めだと考えています。